

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	有限会社プライムライン
事業所名	グループホームちびき
所在地	〒039-2683 青森県上北郡東北町字大平1番地115
自己評価作成日	平成27年9月26日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階
訪問調査日	平成27年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、協力医療機関等との協力体制を大切に、一人ひとりの日々の状態を把握し、健康管理に努めご家族様と情報を共有し協力も得て対応している。また、外出の機会・行事などの企画を職員で考え以前に比べ外出も多くなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所内は落ち着いた雰囲気を利用者の方も穏やかな表情で生活されている。又、地域の保育園や小学校・ボランティアの訪問があり定期的に交流ができています。また、行事や受診の際は、家族と連携を図り協力体制ができています。地域密着型サービス地域連絡会に参加し、他事業所とのつながりがあり、お互いのグループホーム見学や情報交換ができ、サービス向上への意欲が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のケア業務の中で、理念として掲げている「介護は顔で」を大切に、笑顔と笑いの絶えない環境になっている。	定期的にユニット会議で職員に理念を確認している。職員は理念に基づいたケアを意識して、利用者への対応に努めている。又、玄関に理念を貼り外部にも明確にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所における行事の案内などを地域へ配布し、行事に参加していただいている。また、ご利用者様の床屋などを近隣の床屋を利用したり、ボランティアに来て髪を切りながら会話するなど交流している。	夏祭りなどのお知らせを地域に案内して参加してもらったり、地域の保育園や小学校の訪問も積極的に受け入れて交流の機会を設けたり、なじみの床屋へ行けるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、昨年度から認知症カフェを地域の方々に提供できるように準備をしている段階である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においては、ご家族様方より、外出の機会をもっと増やしてほしいとの相談あり前年度の反省を活かし、外出・行事の機会を増やし、サービスの質を高めています。また、入居者の健康状態共有の観点から家族の協力も多くあることも出来るようになった。	定期的に運営推進会議を開催し、参加者の意見をもとに、利用者のサービス向上に取り組んだり、意見交換がされている。	運営推進会議を開催した記録はきちんとあるが、日時や参加者名、場所などの記録がなかった為、今後明確に記録する事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス提供における相談や意見などがある場合には、役場福祉課などに連絡をとるようにしている。	運営推進会議の他、必要に応じて役場福祉課などと連絡を取り、制度的なことや事業所の事など随時報告や相談できる体制ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の施錠はなく帰宅願望が見られる方などは一緒に施設外を散歩したり取り組んでいる。	玄関は施錠せず開放されている。また、利用者の状況にあわせセンサーマットを使用するなど、安全面に配慮しながら、自由に生活できるように取り組んでおり、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ユニット会議やリーダー会議を開催し、日々のケアについて話し合い、サービス状況を確認し、改善に努め職員への業務に対するストレスがないよう取り組んでいる。		

青森県 グループホームちびき（藤）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者において、対象者はいないが、県外へ家族がいる方などについてや、今後入居されてくる方がたで成年後見制度の利用も必要になってくることを少しずつであるが交えながら話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や介護保険改定の際に以前に改定内容などをご家族様に説明する場を確保し理解していただいている。説明する場に参加できなかったご家族様には資料を配布し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議や来所された際に意見交換の時間を設け反映している。外出の機会や居室内環境の相談、日々の日常生活についての過ごし方などを相談などを通して活かしている。	運営推進会議の案内を家族へ送付し、欠席者には記録を送付している。又、面会時に意見を聞く場面を作り、要望に対して職員間で話し合い反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議において、行事の提案やケア内容の改善点など意見交換をしながら運営に活かしている。	定期的にユニット会議やリーダー会議を開催し、職員の意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況などでは、希望休や有給などなるべく職員の希望通りに取れるように努めている。しかし、希望休が職員同士で重なってしまったり、行事があるなどの場合は職員間で話し合い調整している。給与においても時間外手当や処遇改善手当など整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症リーダー研修や実践研修、食中毒についての研修など確保している。また、ケアになれない職員に対しては、ケア時に他職員のケアに同行しケアレベルの向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス地域連絡会に参加をして意見交換や勉強会を行っている。他事業所への見学なども予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、訪問しご家族やご本人と話しをしながら、入居へ対しての不安感や生活についての希望などを確認している。また、入居時も不安にならないように耳を傾けるように職員一同チームで対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に家族と連絡を取り合い、面会時などにも相談に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族より訪問時や相談時に聞き取りを行いサービス計画をたて周知し、その都度、ご家族様や本人が希望されている事なども柔軟にご家族の協力なども得ながら支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話においても、互いに対等の立場として共に生活をしている家族のように接している。介護をする側、される側という考えを職員一同もたないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より、ご家族様への状況報告書の配布や電話連絡、面会時の相談などケアマネだけでなく、グループホーム全体で共に支え合う関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用していた床屋や同一敷地内にあるデイサービスセンターへ知人に会いに行くなど関係が途切れないように支援している。	デイサービスセンター利用の知人と面会したり、以前から利用している床屋さんに行くなど、関係が継続できるよう支援している。又、自宅など馴染みの場所に行く時は、家族の協力を得て、出かけられるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ティータイムなど利用し、利用者全員で談話出来る場を作るようにしている。また、利用者同士の些細な揉め事などにも仲介に入り、孤立や関係の改善が出来るように支援している。		

青森県 グループホームちびき（藤）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム利用終了後もご家族様からの相談やサービスについて紹介したり支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に本人の希望や意向などの相談を聞き対応している。グループホーム内での対応が困難な場合は、ご家族の協力を得るなどしている。	利用者の思いや意向を聞き、要望に応えるように努めている。又、家族の協力を得ながら対応することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様のこれまでの生活についてをご家族様より確認し、ホームでの生活に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の入居者様の状態や行動などケース記録等に記録し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ユニット会議やリーダー会議において各入居者様の日常の状況や状態について情報共有し、改善するように努め、介護計画を作成している。また、ご家族様や本人の意見等もモニタリングし反映している。	本人や家族から意見や要望を聞き、プランに反映させるようにしている。ユニット会議でカンファレンスやモニタリングを行うことで、統一したケアにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や介護日誌等に記録し、申し送りを行い、日々のケアに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の体調や家族間における用事や出来事に対して、ホームと家族、本人と話し合い柔軟に対応している。		

青森県 グループホームちびき（藤）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室や電気屋、ヤクルト販売などご協力を頂き、利用者様も利用されている。美容室では、送迎をして下さったり、電気屋さんには配達をして下さるなど協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医への受診や往診がおこなわれており、状況に応じて家族と事業所と協力しあい支援をしている。	本人の希望するかかりつけ医に受診できるようにしている。又、往診など希望があれば、家族とグループホームで連携を図りながら支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常においての利用者の日々の変化についてを報告相談している。また、看護職員と介護職員と協働して受診・往診の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、利用者の基本情報をネットワークシートにして情報提供をしている。また、入院時にも医療機関と情報交換して対応している。また、退院の際、看護サマリー等をいただき退院後のケアに活かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に備え、主治医からの説明内容をご家族と話し合いの場を設けて、終末期までの対応についてを話し合っている。また、話し合いの結果を主治医へ報告しケア方針を共有している。	現在対象者はいないが、終末期に備え、主治医からの情報を家族と共有し、ケアに取り組んでいる。又、職員の意思統一を図るため研修を企画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの訓練を実施している。今年度は、今後実施する予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、定期的に避難訓練を消防署の協力のもとで実施している。しかし、地域との協力体制がまだ不十分である。	年2回避難訓練を計画して実施している。また、近隣に住んでいる職員や、馴染みの床屋さんなどに呼びかけて協力依頼しているが、地域との協力体制がまだできていない。	運営推進会議に地域の消防団がいるようなので、今後は地域との協力体制が築ける事に期待したい。

青森県 グループホームちびき（藤）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対して、その方にあった声掛け（地域の方言や入居の性格等）や対応（心身に合わせた）をしている。	排泄の声がけも本人にだけ聞こえるように配慮するなど、プライドを傷つけないさりげないケアを心がけている。	居室戸が開けっ放しになると中が見えてしまうので、のれんなどで見えない工夫をしてプライバシーに配慮することに今後期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員より話しかけたり、利用者同士の会話などによりよう者が日々何を思っているか考えているかを把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事においても、利用者の体調に合わせて希望に沿い時間をずらして提供をしている。また、床屋や外の散歩、外出など職員と家族で協力をして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時などに利用者様から衣類をご自身で選んでいただいたりしている。日々の入居者の身だしなみの変化も観察し整えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片づけなど職員と一緒に談話をしながら実施している。また、季節や行事にあった食事内容にし楽しんでもらえるように努めている。	食器を拭いてもらったり、職員と一緒に献立を考え、季節を感じながら、好みのものを取り入れて食を楽しめるような声掛けや支援を行っている。	利用者を巻き込んだ簡単な調理作業（皮むき・盛り付けなど）への取り組みに今後期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量、食事摂取量を記録し、状態の変化に応じて摂取方法や食事内容の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの誘導や声掛け、介助を実施し、清潔の保持に努めている。		

青森県 グループホームちびき（藤）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄チェックを行い、排泄パターンを把握しトイレ誘導や声掛けなどして支援している。	利用者への声掛けはプライドを傷つけないように配慮し、さりげないケアを心がけている。おむつ使用者もいるがトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況や日常生活における活動を把握し、毎日の散歩や運動、水分補給の促しを行い予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の希望などもとり、入浴のタイミングを図っている。共同生活でもある為、すべての希望には答えることはできませんが、希望に答えられるように工夫や改善に取り組んでいる。	利用者の好みや習慣を聞いて、出来る範囲で工夫して入浴できるよう取り組んでいる。又、状況に応じて、入浴日以外でも臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の日常での状態を観察し、小上がりなどを利用して休んでいただいたりしている。また、入眠時もご本人さまのタイミングに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員により服薬管理されており、また申し送りや記録・書類において職員がいつでも確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の世話や食事片付けの手伝い、掃除、ミズの皮むきなどの作業をご入居者と一緒に談話を交えながら行っている。また入居者の気分やペースに合わせ強制をせず行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	なるべく希望にそうように外出支援を行っていますが、出かけられない場合はご家族へ連絡をして協力を得て支援できている。	周辺はじゃり道や坂道だが、利用者の希望に応じてできる範囲で工夫しながら戸外へ出られるよう支援している。又、1週間に2回の買い物と一緒に出掛けたり、家族の協力により外出している。	

青森県 グループホームちびき（藤）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームにおいて金庫に所持金を保管している。また、ご本人様が買い物などの希望がある場合は職員の見守りのもと支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話を掛けられるようにしている。また、ご家族様とも話し合い手紙がご本人様宛にグループホームへ届くようにしている。郵便局への外出支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせてホールに飾り付けをしたり、廊下には行事に参加した思い出の写真を展示している。入居者の皆様が季節感を感じられるようにしている。	適度な採光があり室温も管理され、食事の匂いなどから生活感がある。また、装飾品から季節を感じられるよう支援されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースとしてホールや小上がり、施設の中心にはリビングがあり、知人や入居者同士がくつろげる場がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で利用した物や使い慣れたものを入れて頂くように入居時にご家族と話しをしている。	居室に使い慣れたものを持ち込んでもらい、本人の意向に合わせた環境作りを行っており、落ち着いて過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は段差があまりなくバリアフリーとなっており安全に生活ができるように配慮されている。		